

会 議 録

1 会議名

令和3年度第15回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・三の輪台いこいの広場に係るサウンディング型市場調査の結果について（公開）

【協議事項】

- ・令和4年度地域活動支援事業について（公開）

【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和4年2月15日（火）午後6時30分から午後7時58分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、
田村雅春、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者3名）
- ・産業政策課： 五十嵐課長、岡係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録確認：河野委員、坂井委員に依頼

議題【報告事項】三の輪台いこいの広場に係るサウンディング型市場調査の結果について、担当課へ報告を求める。

【産業政策課：五十嵐課長】

- ・挨拶
- ・当日配付資料1「三の輪台いこいの広場サウンディング型市場調査結果の概要」に基づき説明

【中澤会長】

説明に対して質疑を求める。

【田村委員】

A社とB社は同時にその施設に入ることを想定されているのか。例えば、A社だけにするのか、そういう仮定は成り立っているのか。

【青山副会長】

関連で同じような質問になるが、1社に絞るのか、1事業に絞るのか、2事業、3事業といろいろなパターンがあるかと思うが、市の体制としては、絞り込んで1社にするのかお聞きしたい。

【産業政策課：五十嵐課長】

私どもとしては、まず1社と考えている。どういう結果で相手方から出てくるかを見定めようとは思っているが、基本は1社と考えている。

【磯田委員】

このスケジュールでいくと、市場調査の対話の実施はもう行ったということだと思う。市はこれから公募するであろう方々に向けての要件を取りまとめていくと思うが、その要件についての地域協議会への説明は行われるのか。

【産業政策課：五十嵐課長】

今回、市場調査ということで、各社から内容をお聞きした。それをそのまま、公募の条件にするかは、今検討している。地域協議会に公募の内容を報告する予定は考えていなかったが、公募をして、結果が出た段階で、またご報告させていただきたいと考えている。

【磯田委員】

その公募の要求水準、どういうものをどう作るかを地域協議会に説明しないということは、私には理解できない。直江津の三の輪台に、どういうものを市として作りたいと思っているのか、あるいは、市の財産をこういうふうを活用するということを市民に向けて言わないで、先に業者とネゴシエーションして、「こういう形でいきます」といった事後報告みたいなことは、どうも筋が違うのではないかと思うがいかがか。

【産業政策課：五十嵐課長】

説明不足であったが、提案いただいた相手方とは対話させてもらったので、これで、広く公募したいと思っている。流動的で恐縮だが、公募する前に「こういう条件で、これから一般公募します」ということは、地域協議会に報告したいと思っている。そして、可能な範囲で意見等をお聞きして、反映できるところは反映させていただければと考えている。

【中澤会長】

どういう形で知らせていただくのか。

【産業政策課：五十嵐課長】

できるだけ早く業者にもお示ししたいと思っているので、次回の地域協議会に間に合うように調整させていただいて、そこでお示しし、ご意見をお伺いして公募にかけたいと思っている。

【中澤会長】

他に質問を求めるがなし。

— 産業政策課 退室 —

【中澤会長】

次に【協議事項】令和4年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

令和4年度の地域活動支援事業の審査について、当区においては地域協議会から行っていただくこととなった。今後、令和4年度の予算が市議会で審査され、成立することが前提となるが、当区における地域活動支援事業の準備を進めていくこととなる。

毎年「審査、採択に当たっては、単なる備品購入に留まるもの等は採択しない」など、ご留意いただいている点があるが、改めて情報共有させていただく。それは、提案事業の審査、採択に当たる際の公平性・公正性に関する事項である。

これまでも、地域協議会自らの取組として、また、市からの働きかけにも応じていただき、各委員の皆様から公平・公正な姿勢で審査・採択に臨んでいただいていたと市として承知している。また、当区においては、提案事業の団体の役員等は審査に加わらないという工夫も行っていただいている。しかし、市民の中からは、団体の長が審査に加わっている場面をとらえて、公平・公正な審査であるか疑問とする声があり、現在、市議会の所管事務調査の中でも同様のご指摘を受けている。

市としては、運営では行政からの独立性が高い機関であること、また、委員の選考方法では公募公選制を採用していることを踏まえ、令和4年度においても、現在、提案団体の長である委員が審査に加わることを市として一律に制限する考えはないが、これらのご指摘があったという状況を、参考までに全ての地域協議会の皆様にお知らせさせていただく。

【中澤会長】

今の件について、団体の役員というのは、直江津区の場合には、会長、副会長、事務局長までで、普通の構成員は省くという申し合わせ事項ができています。要するに長がつく人などは、審査から外れてほしいとの情報共有でよいか。

【中村センター長】

市では一律に規制を出していないが、基本的にはそういうことである。

【小川係長】

- ・資料No.1 「令和4年度地域活動支援事業 直江津区の採択方針等について（案）」
- ・資料No.1-2 「令和4年度地域活動支援事業 直江津区の補助対象事業について」に基づき説明

それぞれの項目について、令和3年度と同様とするか、変更する点があるか協議願いたい。

【中澤会長】

それでは、「採択方針」から順に協議していきたいと思う。

- 採択方針：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る
- 募集期間：4月1日（金）から4月28日（木）まで
- 周知方法：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る
- 補助率等：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る
- 審査方法：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○傾斜配点：資料No.1 のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る
次に「採択について」はどうか。

【青山副会長】

採決の結果同数となった場合は、全体協議にて採択を決定するとあるが、この辺がわからない。同数となった場合に、もう1回全体的な協議をしても採択は採択でないのか。賛成と反対が同数になった場合に、全体で協議するというのは協議になるのか。もう1回採択しても同数だった場合には、会長権限で決するのではないのか。

【増田委員】

以前は、会長権限で決するになっていた。しかし、会長1人で決めるのはおかしいのではないかという意見があり、「もう一度みんなで協議しよう」ということになって、この表現になった。

【中澤会長】

思い出してほしいのだが、同数になった場合には、条件付きで一応採択するという形になったのではないか。厳しい条件かどうかはわからないが、その時にまた判断すればいいのではないか。

○採択：資料No.1 のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○その他：資料No.1 及び資料No.1 - 2 のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

【増田委員】

参考までに聞かせてほしいのだが、北部まちづくりセンターが担当している区では、採択審査を地域協議会で行う区と市で行う区の内訳はどのようになっているのか。

【中村センター長】

北部まちづくりセンターで担当している6区のうち、八千浦区と谷浜・桑取区がまだ最終決定していないが、直江津区、有田区、保倉区、北諏訪区は、地域協議会で採択審査をすることになった。やはり、これまでの事業を総括するという意味や、市では荷が重いのではないかというご意見をもとに、地域協議会で令和4年度の採択審査をするという結論であった。

【増田委員】

「令和4年度で地域活動支援事業という形はなくなります」というのは皆さんに知れ渡っているので、新しい提案などで件数が増えてくることが想定される。その時に、い

つも言っているが、事務局で受け付けるときに提案書がしっかりと書いてあるかどうか指導してほしい。そうすると私たちの負担が軽くなるが、そこをスルーされると、私たちは細かいことを全部質問に出して聞かなくてはならなくなる。受付の時に細かい指示をしたほうが提案者に対しても親切だと思うので、ぜひそのようにお願いしたい。

【田村委員】

今までの会が保有した物品は、会の中に財産として残っていると思うが、例えば、草刈り機とか防災の無線、そういったもののチェックは、もうしなくてよいのか。我々は毎回管理情報を掌握できるようにその会の皆さんに言うておくが、それはちゃんと毎年3月末に報告されてくるのか。

【中村センター長】

備品台帳を基本として、提案団体のほうで整備していただくということをお願いしている。備品台帳の提出を求めて、私どもで逐一点検はしていないが、提案があった際に、きちんと備品については「管理を適切に願いたい」と伝えている。

【水島委員】

採択のところで、先ほど同数になった場合、全体協議にて採択を決定することについて青山副会長から話があった。今ほどの話で、「その時で対応しよう」というお話だったと思うが、それで良いのか。私は、この公共的なことに関わっていると、こういう小さなことをきちんとしておかないと、後々問題が出てくるのではないかと思う。私の性格からすると、白黒つけてくれたほうがいい。「こういう場合には、こうしましょう」ということを決めておかないとわかりにくくなってしまう。特に新人で入ってきた方々は、今まではどういう慣例で、どういう通例でこういうことが起きてきたのか、その時はどうされたのかわからない。その時に決めようと言われるが、それで良いのか。

【中澤会長】

皆さん、いかがか。

【増田委員】

全体協議の中で、最後の全体協議に至るまでは、この会の中では、こういうところは疑問だとか、どう思うかという話はするが、「賛成です、反対です」という話は一切していない。最後の全体協議で「これはこういう点が評価できるからいいと思います」とか「こういう点が懸念されるから駄目だと思います」といった賛成と反対の討論をやった中で、挙手でもいいが、採決すればいいと思う。また、今、委員が1人いらっしやんな

いから同数にはならない。

【水島委員】

当日、欠席の人がいた場合はどうなるのか。

【増田委員】

採点票は、事務局に提出することになっているから、当日欠席しても投票されている。仮にどうしても投票できない時にどうするかは、基本的には賛成討論と反対討論をやって、今度は挙手で採決すれば、すぐに決まると思うので、そういうことを想定して、当日みんなで考えようと言ったのである。

【中澤会長】

他に意見を求めるがなし。

【磯田委員】

周知方法に、「2月25日たよりを全戸配布」とあるが、これは地域協議会だよりだと思う。地域協議会だよりをどういう形にするかという話が前から出ているが、今回は、今までどおり事務局がやってくれると理解して良いか。

【小川係長】

地域協議会だよりについては、古澤委員と丸山委員に案の段階で、原稿案をお送りしてアイデアをいただいて作成している。

【古澤委員】

私たちの場合は、構成をどうしたらいいのかという意見を述べて、修正させていただいた。だから、今までよりも字数も減っているし、写真が多くなっているのも、少し、見やすくなっていると思う。

【中澤会長】

採択方針の審議はこれで終了とする。

【中村センター長】

事務局から2点確認させていただきたい。

前回の資料の中に、「追加募集の取り扱いをどうするか」というQ&Aがあった。令和4年度については、経過措置という趣旨から、募集は1回ということで、「追加募集は、考えていない」という方針であるということを確認させていただきたい。

もう1点、増田委員から「事務局のほうで、提案書をよく見るように」という意見をいただいた。締め切り間際に出てきて、何とかそこで間に合わせるというケースもある。

もちろん事務局の力不足という点もあると思うが提案内容に疑義がないように努めていく一方でその点も踏まえていただきたいと思っている。

【中澤会長】

追加募集はないということか。要するに、来年度の募集は1回だけということである。

次に【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・当日配付資料No.2「三八朝市についての班別協議 記録」に基づき説明

本日は、各班より協議結果を報告いただいて、出された解決策や提案について、今後どのように進めていくかをご協議いただきたい。

【中澤会長】

それでは、A班から補足も含めて報告をお願いしたい。

【磯田委員】

当日出た意見は、現状課題として若い客が少ない印象。イベントを開催すると人が多く来ている。食品の出品が多い。若い人、新しい人が出店しづらい。300mほどの沿道にポツンと出店者がばらついている。沿道住宅の協力が得にくくなってきている。等々があった。それに対しての解決策・提案として、各自の意見をいただいたものが資料に書いてある。

全体的なこととして、先般、観光交流推進課が来て説明をしてくれたが、逃げ腰であると思う。誰がやるのかということをお我々に振ってきて、自分たちのやるべき仕事ではないという雰囲気を漂わせて話をしていった。いろいろ解決策のアイデア等はあるが、実際、誰がどのような形で、どういうふうに動いていくか、実行していくかというところがいつも問題になってくる。議論していきながら課題と解決策の案を延々とやっている、そこから先にはなかなか進まない。それをブレイクスルーしていくためにどういう形を地域協議会が取れるかを議論しないと、いつまでたっても、意見の集約や、誰かから話を聞いてという堂々めぐりの検討になってしまう。地域協議会に自主的審議を一生懸命してくれと言ってくるが、そこからどういう実効性を持ったものを提案していくか、作っていくかというところに踏み込んだ途端に非常に難しい問題になってくるというのも現実としてあって、地域協議会として何ができるのかというところをまず議論していかないと、なかなか実効性のあるものにしていくのは難しいと思っていた。

私の手元に三八朝市周辺のまちづくり構想ということで、三八協が、平成21年の3

月にまとめた提言書がある。これには朝市の話も、それから中央商店街の衰退の話も書いてあって、今ここでお話していた、又は課題の整理をしていた、あるいは、昨年度町内会長や市民の人たちと議論していた内容がもう15年前からここに謳われていて、それがさらにどんどん問題化してきている、厳しい状況に追い込まれているというのが現状である。だから、もういい加減その現状把握と課題提案は、ある程度出てきてもいいが、それを実行していく、何か動いていく枠組みを作っていくという方向にシフトしていかないと、永遠に課題を解決していかないとあるところがあると思う。それを地域協議会としてどのように誘導していくかを議論したほうが良いのではないかと考えている。

【中澤会長】

B班のまとめは私だが、朝市のあり方がもう時代に合わなくなってきているのではないかと思う。出店者の高齢化でなかなか後継ぎがない。買い物客もそういう状態であるし、場所が、歓迎されていないということもある。新鮮な魚がないので魅力がないというが、新鮮な魚を持ってくることが嫌われるということとか、それから、従来あったキムチ屋とか、名立の魚屋とか、そういう人たちが撤退してしまっているという現実がある。何で今の市の通りが嫌われているのか、すべて嫌われているわけではないが、月に6日間、午前中車出し入れができないことは、そこに住んでいる人にとっては、相当問題がある。この時季の市は、本当に閑散としているという状況の中で、イメージも良くないし、いろいろな悪条件が重なって、何か少し時代に取り残されているような感じがしなくもない。私も近所に住んでいて、高齢者がシルバーカーを引きずって、買い物に必ず行く人もいる姿を見ると、やっぱり必要なのかなとは思っている。そういう状況の中で、地域協議会としてどうやって課題を見つけ、盛り上げていく方法があるのか、かなり難しいと思っているので、こういう協議も後ろ向きの部分があって先に進まない。

【古澤委員】

C班ではフリートーキングの中でいろいろな意見を出していただいた。その中で、増田委員から「直江津の町から三八朝市をなくしてはいけない」という意見が出たが、全く同感である。直江津の駅を降りてくると三八朝市の看板が立っている。駅から降りた人は、直江津の町を見て明治44年以来続いている三八朝市というものがあると目にする。100年以上も続いているものを安易に潰してはならないということである。

そこで「三者の連携」ということで書かせていただいたが、先般の会議の中で、市のほうで、なぜ私たちがこれをやらなければならないのかという発言があった。これは皆

さんの記憶にあるかと思うが、全く熱意が感じられない。市の観光担当がやらないのであれば、どこの課でやってもらえるのか。やはり市のほうでリードしていただき、市、朝市組合、町内会の連携を十分に図っていただかないと、話が進まないのではないのかと思っている。

その中身も、やはり町内会の方がこれをやるのは無理だと思う。三八協で実施したアンケートの記入欄を見ると、駐車場、土地の関係で空き家があってもなかなか売れない。それは三八の市をやっていると、車の出入りができないので、今の40代、50代くらいの意見としては、もうそろそろ考えて直してほしいという意見が多くある。ただ協力しないということではない。場所を船見公園側に寄ってはどうかという、アイデア等々がある。それを地域であげてくださいということになっている。そういう意味でこの三者連携の中で、町内会と朝市組合、三八朝市周辺まちづくり協議会がきちんと連携していけばうまくいくのかなと思っている。

先般の、勝島さんのお話を聞いて全くそのとおりでなと思っている。具体的な意見としては、店舗の場所を船見公園寄りにしたらどうか。店舗が空いていないようにきちんと並んだらどうか。場所を変えたらどうか。冬場は中止したらどうか。これは皆さんそう思っているのかなと思っている。私もこの13日に市を見てきた。一番賑わう10時頃、15店出ていた。テントを張っている店は少ない。雁木を借りたり、車庫を借りたり車を借りたり、あるいは、路上に並べたり、朝市として仕方ないが、ただ出ているだけかなという感じで、賑やかなのは一部の店舗だけだった。店を出している方も年をとっているし、買い物に来る人も若い方がいない状況であった。その中で、どのように活性化したらいいのかということになればいい案が出る。ただ、それをどなたがやれば一番いいのかということになれば、最終的には地域協議会が全面的に応援をしていきたいという結論でまとまった。そのためにやはり各団体の方から出てきていただいて、市のほうもきちんと対応していただけるような場所作りからやったらいいのかなと思っている。蛇足だが、市の観光担当で一生懸命やっている人がいて、その方が、スイーツまつりを仕掛けてくれた。また異動してしまえば、元の本阿弥になってしまうのでは、という話も出ている。そういう意味で、地域協議会としても見守って、「直江津の町から三八朝市をなくさない」ということを合言葉にしながら取り組んでいったらいいのかなと思っている。

【中澤会長】

協議に参加していた人で、補足があれば、お願いしたい。

【田中美佳副会長】

私の班は中澤会長がいらしたので、現状をいろいろ聞かせていただいた。朝市はあればいいと思うが、今までの流れを見ていると地域協議会委員がしてほしい朝市のことは、本当に朝市の方たちは続けたいと思っているのか。現状のままいけばいいと思っている方が多いのではないかと。そうすると、根本的な考えがきちんと整理されていないのに、私たちがやったらどうだということは、本当の解決策になっているのか。前回の話し合いの時も、「何か違うような気がする」という話をしていて、続けていくことはとてもいいことだが、今、やっている方の中で、本当にやりたがっている人がどれだけいるのか、その辺の意見が全然ないまま協議しても解決にならないのではないかと考えた。そうってしまうと話が終わってしまうが、私たちが盛り上がっていても、ちょっと違うのではないかと考えた。

【水島委員】

この協議の仕方が、我々はどこまで踏み込んでいいのか、非常に疑問に思うこともある。今ほど、田中副会長が言われたように、我々が今ここで協議していることが、朝市に直接に出ている方々が感じていることなのかどうか。その辺のギャップがあるのではないかと。我々はひょっとしたら、この会があるからそれを心配するのではなく、「こういう意見もある」と、ここで発表しているだけではないか。先ほどの磯田委員の意見を歓迎しているのだが、絵に書くことは非常に簡単である。これはおそらく10年前から同じような話をしているのではないかと。その中で傳承して今の状況はどんどん負のほうにいつているのも現実である。こういう協議がなされた時にどのようにしてそれを止めるのかということ、実行していかないと意味がない。絵に書いた餅だけでは話にならないと思う。我々はわからないでここで話をしていて、行動しないのであれば終わってしまうのではないかとするのは、確かにそのとおりだが、これは三八朝市のことだけじゃないと思う。すべてのことに通じると思う。ここで協議することが、絵に書くだけでいいのか。我々がそれを述べるだけでいいのか、計画するだけでいいのか、実行部隊を何も持っていない我々が勝手なことをどんどん発言することが、どれだけ意味のあることなのかなと非常に疑問に思っている。

【磯田委員】

これは全くの私論だが、新年度の地域活動支援事業の枠組みはもう決まった話なので、

それを変えるとかではないが、例えば、この地域協議会の中で自主的審議をしていきながら、直江津の何とかしなければいけない課題について、我々がまず議論をする。議論した時に「こういうことが欲しいね」とか、そういう提案事項も少し提案をする。そして、それを市民に提示して、直江津区直近の課題で、「これとこれはやっぱり厳しいよ。何とかしなくてはいけない。そのアイディアとして、地域活動支援事業で何かやってくれる団体が出てきてくれませんか」といった動きが本当はできるはずだった。実行部隊として誰かが手を挙げないと、地域活動支援事業のお金は使えない。地域協議会が実行するわけにはいかないのだから、地域協議会の中で議論した内容、議論して提案していること、その提案を受けて、それぞれの団体や活動する人たちが「こういうことができるよね、我々のネットワークだったらこういう繋がりもできるよね」という提案を出してきてくれることに支援をしていくような枠組みができれば本当はもっとよかったのかなと今までずっと思っていた。

【中澤会長】

磯田委員が言ったように、方法がないわけではないと思う。直江津区は今までやったことがないが、元気が出る事業とか方法は残っている。今、三八朝市だからちょっと尻込みしてしまうが、そういう手段がないわけではないし、何らかの形で、各団体に入っている人もいるし、そういう中で意見を述べるということもある。それから、そういう団体にまた働きかけるということも可能だろうと思う。

【田村委員】

今までの三八朝市のお話をずっと聞いていて、非常に気になっているのは、今の通りからなぜ移動できないのか。その辺が全然わからない。冬場の問題もあるので、なかなか広い場所を見つけるのは難しいかもしれないが、私どもが提案したのは、水族館の近くの空き地にずらっと並べたほうが上越の名物になるのではないかと。そういう提案をストレートに言っても良いのではないかと。そのように一歩でも二歩でも進めるべきではないかと思う。私も小さい頃、福永町に住んでいたのだから親と三八朝市に行った記憶が鮮明にあり、直江津の歴史的文化と思っているので、そういう工夫をしてもいいのではないかとつくづく思った。

【古澤委員】

団体同士で話し合うということが最初の課題だと思っている。各団体でそれぞれ意見があがっている。それを置き去りにして進んでいたのでは未来に発展はないと思う。そ

の中でスイーツまつりをやった時は、かなり賑わっていた。子どもが作ったものを売るとかイベント等々をやっている。通年的にやることはできないが、イベントを実施すると非常に賑わう。そういうアイデアを出し合いながら盛り上げていってはどうか。いわゆるその場がない。場があれば意見を練ることもできる。実行力を持って直江津の文化を残す、これは非常に大事なことだと思っている。

【中澤会長】

他にどうか。集まるにしても、誰が音頭を取るかである。そういう覚悟があれば少しは前に進むのかと思う。場所も市から金が出ている。そういうことも、いろいろ絡んでいる。

【水澤委員】

昔は道が狭かったようだが、なぜ広くしたのか。

【中澤会長】

市のために広くしたわけではない。冬場の雪を排除するためとか、いろいろな関係で雁木を全部取り払ったので広がったのである。

【水島委員】

三八朝市は昔と比べてどのくらい変わっているのか。

【青山副会長】

今の社会環境を考えてみれば、直江津自体は連たんした家屋が並んでいる場所であり、若い人たちは駐車場のない所には住めない。連たんした場所では、駐車場を持ってないので、郊外にみんな出てしまう。直江津の人口は減っていないが、世帯数が増えている。そういう状況で、老人だけで食べる量は限られてくるので、朝市に行っても買う量も限られて来る。出品するほうもだんだん縮小される。例えば、3の付く日は西側だけにしようとか、8の付く日は東側に並べるとか真ん中で切るとか、いろいろやり方があると思う。

【田村委員】

うちの班でも青山副会長と同様の意見が出た。3の付く日は右側、8のつく日は左側とか。だが、片側だと駄目だという話だった。

【古澤委員】

毎回、場所が決まっている人もいる。決まった場所がいなければ休みだとわかる人もいる。

【磯田委員】

アイデアは当然あるが、そのアイデアがただ単に思いつきのアイデアなのか、又は、いろいろな条件をクリアしていく中で、それをしていくことによって三八朝市が活性化するのか、そういうことも検証しなくてはいけない。ただアイデアを社会実験的にやってみてというのはあるかもしれない。我々がやれるとすれば、古澤委員が三者の意見の調整と言っていたが、三八協も実はやったが、横串は入れられなかった。一番横串を入れられるのは、市の観光交流推進課である。朝市は市の所管なので、市がこういう方針で三八朝市を活性化させていくという命題を出して、それに向かって朝市組合や、三八協や、町内の人たちなどのアイデアと協力を作っていくという枠組みをしていかないと、民間団体の横串は、もう入れられないと思う。やれるとすれば市が本気になるようなことなのだが、今、中川市長は通年観光と言っていて、それがいいか悪いかは別にしても、三八朝市エリアは直江津の中の都市観光エリアである。昔からの古い直江の津という歴史があって、砂丘の上にできた町家があって、街歩きしても楽しいし、三八朝市が魅力的になっていくという側面もある。それが、あすか通りに移動したり、屋台会館のところへ移動したら三八朝市エリアの人たちにとってのアイデンティティや思いがやっぱり欠落していくということもあるし、いろいろなことを考えなくてはいけない。ただ、横串に入れられるのは、観光交流推進課なので、そこに対して地域協議会として意見を出していく。あるいは、直江津の朝市を何とかするのが直江津の全体のまちづくりに寄与する問題なのだとすることを市にぶつけて、こういう課題があって、今までこうだったけれども、新しいことをしていく。それこそ元気が出る事業を使ってもいいかもしれない。地域の人たちと市が一緒になって何かやるという枠組みで、観光振興をやる気にさせるというか、その気にさせて動かしていくということを、地域協議会が押すというシナリオが私は一番可能性があると思っている。

【中澤会長】

三八朝市についての話は、今年初めてで、今まで何もしなかったのが実情である。だから、これがスタートだと捉えてもらって良いと思う。年度末が近いので結論を出すというわけにいかないと思う。来年度、そういう話を続けていくということを確認し合っ
て、この問題はこれで終わりにしたいと思うが、いかがか。

(同意の声)

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・次回協議会：3月15日（火）午後6時半から

内容は、現時点で協議事項等はない。先ほどの報告事項で三の輪台の公募の内容が決まれば、議題に入ることになるかと思う。

また、自主的審議について、三八朝市については来年度も引き続き協議していくということになったので、3月は「福島城を愛する会」との意見交換を、相手方とも意向を確認しながら、日程調整ができれば、お越しいただくような段取りをしたいと思っているがいかがか。

【中澤会長】

「福島城を愛する会」の役員をやっている人から、「その後どうなったのか」と、私の耳に入っている。何らかの形で1回、話ができたらと私は思っている。

【小川係長】

次回の3月15日か、3月26日の地域活動支援事業募集説明会の後で日程調整を考えている。

【中澤会長】

予定はそういうことでお願いしたい。

【小川係長】

1点ご報告をさせていただく。地域活動支援事業の採択事業の海鮮市場事業について、12月に1度実施方法の変更について協議していただいたが、新型コロナウイルスの感染症の拡大防止の観点から、今回は中止したいという届出が提案団体からあった。

【中澤会長】

他に皆さんからないか。

【田村委員】

前々回だったと思うが、うみまちアートの決算報告がまだ出てないのではないかという話をしたが、その後どうなっているのか。

【中村センター長】

企画政策課に確認して、説明ができる時点になったら、対応してほしいということで申し伝える。

【中澤会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。